

銀漢亭日録

伊藤伊那男



12月19日(土) ▼明日から煤逃吟行。二月号の選句選評。シャカリキに

こなす。近所の二家族が遊びに来ていたが、参加せず、夜になるまでに仕上げる。「角川俳句大歳時記」の改訂版に井月忌を立項する！

とて、解説文の依頼を受ける。「銀漢句会」他数句会の選句。これで憂いなく旅に出られる。

20日(日) ▼五時起床。カラスミの手入れなど。八時過ぎの新幹線に乗車。横浜に着く前から富士山が見える日は珍しい。快晴！新大阪、十一人集合。千里山バスにて堺市役所展望ロビーより、百舌鳥古墳群を俯瞰。あと仁徳天皇陵古墳前で「雲の峰」の角野京子さんの出迎えを受け、案内していただく。粉河寺を見て、雪の高野山へ。「宿坊遍照光院」泊まり。食後、五句出し句会。

21日(月) ▼七時、勤行参加。八時過ぎ、出発。会計で酒代を取らなかったというので慌てて心付けを渡しに行く。金剛峯寺、壇上伽藍参拝あと奥の院へ。丁度、空海上人の月命日。弘法さんの日で、林檎と饅頭を頂く。十時半のお膳(空海上上人への食事)を運ぶ日課を目撃する。戦国、江戸時代の大名の墓など、雪の中を見学。慈尊院、丹生都比売神社(天野の里)を見て葛城の高鴨神社と、この旅でようやく奈良に入る。駅前の「スーパールホテルLohas JR奈良駅」投宿。朝妻力さんと合流し、「蔵」の二階へ。五句出し句会。食事佳し。時節柄、早めに切り上げて二十二時、就寝。

22日(火) ▼五時起床。快調。「蔵」でいただいたおにぎりの朝食。温泉にゆっくり浸る。九時過ぎの電車で大阪、四天王寺へ。またま

た角野京子さんが来て下さる。中島凌雲君が来る。四天王寺は何回か来ているが、今回はゆっくり巡る。あと高槻の今城塚古墳へ。二回目。十六時半、井蛙さんと京都。四条烏丸のホテルに投宿。大住光汪君と合流。「しん」に和田ちゃん、悦子と五人。色々食べるが、とにかく、ぐじ！京都もコロナ規制あり。二十一時にはホテルに入る。

23日(水) ▼七時、「高木珈琲」にてモーニングセット。うまい！桃山の桓武天皇柏原陵、明治天皇伏見桃山陵、乃木神社を歩く。伏見稲荷大社を訪ね、稲荷山一周一時間半。京極の「三嶋亭」にてオイル焼。「たつみ」にて粕汁と酒一杯。錦市場で酢莖、白味噌他を買う。ホテルで荷造りした後、十九時半、聖護院の「河道屋養老」で養老鍋。エッセイ一本、二十二時就寝。

24日(木) ▼七時過ぎ、「高木珈琲」。八時位の電車にて安土。安土城跡を巡る。一回目は二十代後半、四十代にも来て、今回三回目。随分整備が進んでおり、これもまた良し。あと彦根城、ここも三回目か。十七時、長浜。「住茂登」の鴨鍋。雨となる。大住君はここで別れる。奥琵琶湖のホテル投宿。二十二時就寝。

25日(金) ▼五時過ぎから、俳句鼎談の準備。十時十分、ホテル前の船着場から竹生島へ。虹をいくつも見る。竹生島は一時間ほど。同じ船で戻る。北国街道沿いの「翼果楼(よかる)」にて鯖そうめん、鯖鮓、小鮎煮、鮓鮓で仕上げ。二時過ぎの電車で高月の渡岸寺観音堂(同源寺)の十一面観音を拝す。三度目か。米原から新幹線、眠りっぱなしで帰京。十九時過、帰宅。

26日(土) ▼カラスミ調整。伶ちゃん今日も舞台。十三時、飯田橋の

角川本社にて合評鼎談三回目。終って忘年会の予定であったが、コロナ禍拡大の中であり、神楽坂の「志満金」の鰻弁当を用意して下さり、歓談。酒なし。

27日(日) ▼午前二時、起。各句会の選句。通信の他雑務。六日間留守をすると郵便物多数。

28日(月) ▼否一家と吉祥寺の焼肉店「李朝園」で忘年会。昔、家族でよく来た店。

29日(火) ▼発行所、武田編集長と打合せ。あと知人の店を二軒ばかり廻る。苦境の中、頑張っている。

30日(水) ▼昨夜から家族はスキー。莉子は一週間前から合宿。「銀漢新年俳句大会」の募集句六百句強あり、選句を井蛙さんに送る。ごまめ、数の子、五色なます、鯉の酒粕煮などの用意。夕方、家族スキーから帰宅。近所の中川家に三家族集まり忘年会。寿司、鴨鍋など。二十四時、私だけ帰宅。

1月1日(金) ▼昼近くに皆起きてきて、新年の挨拶。白味噌雑煮、お節料理、ヴーヴクリコで乾杯。十四時までの酒宴で酔っ払い、昼寝。夜、河豚刺、鯖酒。たらは蟹の鍋。

2日(土) ▼昼、大井町へ。途中富士山を仰ぐ。午後の「ライオンキング」(劇団四季)に伶輔君出演六回目。私は二回目の観劇。「初芝居ライオン」の子の孫を見て、伊那男。一緒に帰宅して今夜はビザを取る。白菜スープ、キャベツのサラダ他。

3日(日) ▼午後、否一家来て新年会。気仙沼の牡蠣取り寄せ。生、蒸し、土手鍋。カラスミの新作供す。Mさん句集稿、Sさん句集稿のチェック。二月号校正の残り。

4日(月) ▼「俳人協会賞」最終候補作品を読み始める。夜、和田ちゃんに頼んだ九条葱と京の油揚げで鍋。

5日(火) ▼久々、散歩。農家などを巡る。「銀漢」の「季語別俳句集」三回目の校正ひたすら。二月末予定の調布市の講演延期の連絡受く。

8日(金) ▼遅ればせながら七草粥。十三時、発行所にて「季語別俳句集」校正会議、三回目。十七時近くまで。一斗、禪次、大和、悦子さん。校正はジャングルの迷路。

9日(土) ▼快晴。緊急事態宣言下ながら、伊那北会で江戸城巡り。夏に市ヶ谷濠から桜田門近くまで歩き、炎天下でへたばって断念。「桜田門外で変」の仕切りなおし。半蔵門から反時計廻りにはぼ一周して、解散。桜田門は正式には「外桜田門」。従って「外桜田門外の変」といふべきか。

11日(月) ▼「銀漢」の「新年俳句大会」の賞品の短冊七枚。書初め。あと、寝たり、起きたり、テレビを見たり、怠慢な一日。伶輔舞台。

14日(木) ▼ここ数日、「俳人協会賞」最終候補の作品を読み続ける。今年の「春耕賞」該当作なしと連絡あり。選後評送る。

16日(土) ▼十四時、発行所。「銀漢」の皆さんへの新年の挨拶と新年大会の選後評のビデオ撮り。羽久衣、井蛙さん。いづみさんも来て、神保町の「ビヤホール ランチョン」で小酌。

17日(日) ▼三月号のエッセイ、自句自解その他。礼状、通信等。角川合評鼎談の校正。